

予算案をチェック ☒

主な提案内容を紹介します。

- **デジタル地域通貨活用事業費**……1億360万円
デジタル地域通貨を活用し、16歳以上の市民へ支援
- **働く世代応援自治体マイナポイント事業費**……1億9,500万円
自治体マイナポイントを活用し、働く世代（19～64歳）に向けて支援
- **幼児健康診査費**……328万円
5歳児健診を新設、4か月健診の受診率向上へ集団健診実施
- **曳山保存展示施設整備費**……500万円
曳山保存に向けた基本構想、基本計画の策定



小松市イメージキャラクター
カブッキー

市長から提案のあった予算案については、予算決算常任委員会で審査されました。(P19参照)

令和7年度6月補正予算

会計名	補正額
一般会計	9億5,030万円
特別会計	9億1,000万円
企業会計	4,940万円
計	19億970万円

一般会計の累計

547億6,030万円

全会計の累計

1,126億5,990万円

小松市市政功労者表彰、 全国市議会議長会・北信越市議会議長会表彰

本年度の表彰式及び伝達式は6月9日(月)、6月定例会初日の開会に先立ち、本会議場で行われました。
今回、表彰を受けられた議員は次の方々です。また、橋本米子議員、川崎順次議員は小松市議会表彰も受賞されました。

〈30年表彰〉

橋本 米子 議員
川崎 順次 議員

〈10年表彰〉

南藤 陽一 議員



(前列中央左から)

南藤 陽一 議員 橋本 米子 議員 川崎 順次 議員



会派自民
おもて やすし
表 靖二 議員

代表質問 一括質問

未来型図書館 計画の縮減について



動画で
チェック

◆未来型図書館と財政

Q 市側が現在示している計画では建築面積約9,000㎡、総事業費約86億円とされている。しかし、昨今の急激な建築単価の高騰により、事業費が1.5倍から2倍に達する可能性がある。経常収支比率95%に近い本市の財政状況で、総事業費が100億円を超える図書館の建設は大丈夫なのか。

A 民間事業者との対話や詳細な見積り等を参考に、さらに事業費の精査を行っていき、引き続き施設整備費及び管理運営費について市場の動向を注視していきたい。

Q ハコモノ3原則（新規整備の抑制、複合化の推進、総量の縮減）に基づき、規模を縮減してはどうか。

A 施設規模については、市民との対話の下、多面的な機能を有する複合施設として、公共施設マネジメントの観点も踏まえ、9,000㎡を基本に検討を進めてきており、多様な機能や市民活動を実現するため、現時点で規模の縮小は考えていない。



現在の市立図書館

◆エコロジーパークの現状と将来について

Q 金沢市をはじめとした近隣市と比較して、営業時間が一番長く、年間の休業日は一番少ないという現状

がある。また、金沢市などは予約制を採用している。適正な営業時間や営業日数、予約制の導入についてはいかがお考えか。

A 当面は現行の受入れ方法を維持するが、今後は予約制の導入だけでなく、搬入手数料の見直しや営業日、営業時間等、あらゆる面を総点検し、見直しを検討していきたい。

Q 社員、パート等の高齢化が著しいが、是正してはどうか。

A 将来にわたって安定的に運営を維持していくためにも、受託事業者が新規採用を含めた人員配置を適正に進めていけるよう、本市としても連携・協力していきたい。

◆学校再編と出生率について

Q 令和7年、小学生は5,326人、15年後は3,327人で38%の減少率となる予測がされている。市では学校再編についてどのような基準で臨むのか。

A 統廃合の基準については、国が定めた公立学校の適正規模・適正配置等に関する手引を念頭に置きつつも、本市の実情にとって最適な基準を定めていきたい。

Q 削減による経済的効果については、1校あたり平均約6,000万円程度と考えられる。財政面での効果は大きいと思うが、この点についての考えは。

A 子供たちにとって豊かで多様な学びの場を再構築するためにも、学校の適正規模、適正配置の検討を進める必要がある時期であると考えている。今年度から小中学校の適正規模、適正配置について検討を進めていく。



小松志士の会
みやにし けんきち
宮西 健吉 議員

代表質問 一括質問

小松の未来を
形づくる重点的取組
Komatsug
プロジェクトについて



動画で
チェック

◆小松空港シン都心整備について

Q アリーナ建設に手を挙げた北國フィナンシャルホールディングスは、建設費が350億円に上るため民設民営を断念し本市に謝罪した。謝罪すれば済む問題でない。市長の見解は。

A 民設民営でのプロジェクトが断念されたのは大変残念だが、南加賀、県全体の成長のため、事業者・県・市の3者で協議を行いたい。

Q 防災庁の分局誘致について市の見解は。

A 本市の抜群のアクセス力と災害対応実績など、空港周辺の優位性を強くアピールし、積極的な誘致活動に取り組む。

◆小松駅周辺の再整備について

Q 北陸電力複合ビル「ウレシャス小松」の概要と竣工式の予定は。

A 多目的ホールのほか、オフィスやホテル、小松大学などを有する10階建ての複合ビルである。市が借り受けるオフィスフロアは、優先交渉権者を選定し契約に向けて協議中。竣工式は10月23日を予定。

◆芦城公園周辺の再整備について

Q 未来型図書館を中心とする文化・歴史・緑が融合する一大ゾーンの今後の構想は。また、曳山保存展示施設の構想は。

A 図書館や博物館、市民交流・活動機能を持った複合施設とし、芦城公園周辺エリアの賑わいを創出する。曳山保存展示施設は、曳山3基を保存展示可能とした施設を整備。

◆木場潟での子育て拠点の整備について

Q 北陸随一の学び・遊び場の構想は。2030年育樹祭開催実現に向けてのスケジュールは。

A 学びや遊びの機能を集約した子育てゾーンとして、県と連携して本エリアのビジョン実現に取り組む。3年前に育樹祭開催が正式決定、2年前に実行委員会の設置、1年前に実施計画策定といったスケジュールを予想。

◆産業ブースト計画について

Q 向本折地区土地区画整理は。

A 令和8年度に事業認可申請、9年度に公募、11年度末に事業完了を予定。様々な産業を配置し、雇用の創出を推進する。

◆未来を育む学びのリビルドについて

Q 全小中学校と市立高校の規模、立地、教育体系についての見解は。

A 校区の見直しなど全小中学校を対象に適正規模・配置の検討を進める。市立高校については、教育内容・規模・校舎移転など総合的に在り方を検討する。

◆南加賀の地域医療の強化について

Q 新市民病院の構想について。

A 救急医療や高度医療の強化・充実を図り、地域の医療機関との連携強化・機能分担を明確にした上で、診療科の見直しを含む抜本的な経営改善を図る。

◆地域公共交通の再構築について

Q 公共交通の課題とは。

A 運転士の不足や高齢化、路線バスの利用者減少など。

Q 持続可能な公共交通の構築は。

A 自動運転バスや公共ライドシェア、乗合ライドシェアなどをエリアごとに適材適所に組み合わせる。

◆市税収入200億円突破計画について

Q 達成するための戦略は。

A 産業創生による法人市民税や固定資産税の増加、子育てサポートによる人口増加で個人市民税の増加を見込む。公有資産の民有化による課税資産への転換にも取り組む。

Q ふるさと納税目標10億円でCMOの見解は。

A 市税に次ぐ自主財源の確保は、本市の未来を築く大きな礎となる。民間での経験と移住者としての視点を活かし挑戦する。

◆小松市公民館連合会について

Q 役割とこれからの方向性は。

A 中央及び地区公民館、分館で組織され、公民館活動の振興・発展に資する事業を行っている。

Q 市立公民館の役割とこれからの方向性は。

A 「まなぶ」の役割を担い、市民を対象に様々な講座を行っている。地域の自発的な学びの活動拠点となる体制への見直しを行う。



自民党こまつ
かわさき じゅんじ
川崎 順次 議員

代表質問 一括質問

未来の小松へ挑戦を!!
次の世代のために…



動画で
チェック

◆市長2期目に向けて

Q これからの4年間、小松市の未来をどのように描いていかれるのか。重点的に取り組まれているKomatsu9プロジェクトや2040年ビジョンの実現には、批判や反対、後ろ向きな意見があると思うが、未来の小松のために果敢な挑戦を続けていただきたい。

A 小松市がやらずにどこがやるのかという気概を持って、希望ある小松市を次世代へつないでいくために、万里一空の精神で2040年ビジョンの実現に向けて、ウラ日本から新たなまちづくりに挑戦してまいりたいと考えている。

◆アリーナ計画見直しについて

Q 建設費は当初より増加し、北國フィナンシャルホールディングスは民設民営での整備を断念され、官民一体での事業化を目指すとの報道であった。今後慎重かつ戦略的判断が求められる中、県を含めた3者の協議の場を早期に持つことが大事ではないか。

A 民設民営でのプロジェクト続行が断念されたことは非常に残念ではあるが、今後は、公的支援の再検討など、県を含め3者で共通認識を持った上で協議を進めていきたい。

◆県内の周辺断層帯での地震発生による被害想定について

Q 小松市での大きな被害が想定される福井平野東縁断層帯地震から、命を守るための備えを抜本的に見直し、災害対応体制の強化に早急に着手する必要があるのでは。

A 今回の甚大な被害想定を受け、早急に地域防災計画の改訂に着手する必要があると考え、5月29日に市防災会議を開催した。

今回の地域防災計画の改訂は令和7年度末を目指しているが、引き続き自助、共助の防災意識を高めるため、地震を想定した防災訓練をはじめ、自主防災

組織の活性化等、地域防災力の向上を図っていく。

◆市内の上下水道管の耐震化、老朽化対策について

Q 駅周辺の下水道管は耐用年数である50年を経過しているが、老朽化対策にAI等の導入は。

A テレビカメラ映像をAIで解析し、劣化状況の判定精度の向上や診断の効率化が可能なシステムの実用化が始まっており、これらAI技術の積極的な活用をしっかりと検討していく。

Q 上水道管の耐震化は、地震被害における初動体制の要である。

A 令和6年度に老朽管更新も含めた上下水道耐震化計画を策定したところであり、今年度はAIの劣化予測診断を利用してアセットマネジメント計画の策定を行う。

◆防災庁の地方拠点について

Q 小松市は地方拠点に最もふさわしいと考えるが。

A 石川県とも連携しながら、引き続き積極的な誘致活動に取り組んでいく。

◆小松市民病院へのNICUの設置について

Q 小さな命を守る体制の整備を求める。

A 石川県の医療計画では既存の4か所での設置となっており、現時点では小松市民病院での設置は難しいと考えている。

◆小松市CMOの林聖大さんに聞く

Q 222人の応募から選ばれたが、これから市長とどのような戦略で挑むか。

A 官民連携を一層強化し、地場産業と連携した商品開発やプロモーションを進めていきたい。